様式第７号（第４－４－(1)関係）

令和３年度第１回ふじのくにユニバーサルデザイン推進委員会
会議録

日　　時	令和３年９月13日(月)　午後２時から午後４時まで
場　　所	静岡県庁　別館７階第３会議室（オンライン開催）
出 席 者 職・氏名	委員 井上泉（一般社団法人静岡県建築士事務所協会） 小濱朋子（静岡文化芸術大学）　【委員長】 加藤弥生（土筆旅館） 畔柳清光（スズキ株式会社） 佐瀬竜一（常葉大学） 竹島恵子（公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団）【委員長代理】 鳥原久資（特定非営利活動法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会） 生川友恒（静岡大学） 山崎克巳（静岡県車いす友の会） 事務局 くらし・環境部県民生活局長　横地眞澄 くらし・環境部県民生活局県民生活課長　若月伸隆
議　　題	１　第５次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画評価書案について ２　次期計画について ・策定方針案 ・次期計画骨子案
配布資料	資料１　　：ふじのくにユニバーサルデザイン推進委員会名簿 資料２－１：第５次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画(2018～2021)の概要 資料２－２：第５次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画　評価書案 資料２－３：評価区分 資料３－１：次期ユニバーサルデザイン推進計画策定方針案 資料３－２：次期計画　骨子案 資料３－３：次期計画　取組案 資料３－４：意見交換テーマ 資料３－５：持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ） 参考資料　：第５次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画（冊子）

１　審議事項

(1) 第５次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画　評価書案（資料２－２、２－３）

(2) 次期計画について（資料３－１、３－２、３－３）

２　審議内容

（１）第５次ふじのくにユニバーサルデザイン行動計画評価書案について

（資料２－１、２－２、２－３に基づき、事務局より報告）

（２）次期計画について

（資料３－１、３－２、３－３に基づき事務局より報告）

＜委員からの意見、助言等＞

（畔柳委員）

・今年に入ってからＳＤＧｓは、政府の強い発信力もあり自治体や企業がＳＤＧｓの17のテーマに沿った目標を設定進めて行くことが重要な責務となってきている。

・ＵＤの活動が、ＳＤＧｓのどこにあてはまるかということを明示し、ＳＤＧｓを意識してまとめていく方法もある。

（竹島委員）

・情報の観点からも、デジタル化は大切な事であるが、障害の有り・無しだけではなく貧困等の問題により、デジタル化についていけない人々がいる。また、障害のある人の中にはデジタル環境を自ら整備する事が難しい方もいるため、そうした方への手助けという部分をキーワードとして気に留めていただきたい。

・公共交通機関の整備を進めていく中で、鉄道やバスといった主要なものだけではなく、静岡県には港や空港があるため、港や空港も含めて一体的に整備を進めるといった観点を持ってほしい。

（山崎委員）

・オリンピック・パラリンピックを迎えるにあたり、ＵＤタクシーが静岡市等県内にも導入がされているはずであるが、「今日は運行していない」等の理由で利用ができなかった事があった。
必要とする方達が使えない状況となっていることを残念に思う。

・身体的な障害のある方は、外見などで分かりやすい部分もあり、車椅子や視覚障害者向けの講座は、よく行われているように感じるが、外見では分かりにくい発達障害等の特性を持った方達について、出前講座等の中で取り上げていただきたい。

（加藤委員）

・ＵＤの導入にあたり、ＳＤＧｓとの関連もあり補助金による支援が行われているが、資金的な体力があるところであれば、補助金に応じて取り組むことが出来るが、全額補助でないと資金面で導入が困難といった状況が生じている。

・見るだけで情報が伝わるよう、パンフレット等へ絵を多く入れる等の分かりやすい表示に、できる部分から取り組んでいる。

（井上委員）

・建築、土木や交通においては「ＵＤフォント」がかなり考えられており、印刷物や看板等に取り入れられている。

・今回の計画では、いきなりＳＤＧｓが前面に出てきており唐突感を感じる。

・ＳＤＧｓの括りによりＵＤを振り分けていくと、多面的に捉える事ができるメリットがある一方で、範囲が広範囲になり何でも関連してしまいＵＤのポイントがぼやけてしまう気がするため、ＳＤＧｓとＵＤの関連性等を整理をする必要があるのではないか。

（鳥原委員）

・ＵＤフォントは、奈良教育大学で教科書に採用する実験が行われ、「ディスレクシア（発達性読み書き障害）」がフォントによって緩和されるということで、奈良県教育委員会では県内の特別支援学校に配備

されているコンピューターにUDフォントを導入している。
・ＵＤを広めることで、ＳＤＧｓの認知につなげるという目的も持つことができるのではないか。
・無理にＳＤＧｓへＵＤの取組をラベリングしてしまうと、唐突感をとても感じる。
・取組のラベリングではなく、バックキャスティングの視点により、未来の目指す姿を計画に取入れることで、今までの計画と異なる作り込みや見せ方ができるのではないか。

（小濱委員長）
・ＳＤＧｓのマークが、いきなり計画に出てきたため、唐突感を感じてしまう。
・2030年のＳＤＧｓのゴールとＵＤの継続性の関係を整理していくと、唐突感がなく馴染んでいくのではないか。

（生川委員）
・自分を大切にすることができることで、相手も大切にすることができ、お互いに支え合っていくことにつながるため、計画の中で県民一人一人が、自分を大切にしていくといった視点を取り入れたい。
・自分を大切にすることは、性別、宗教、文化、障害の有無やＬＧＢＴ等も含めて自分のことについて誇りを持っていくことにつながっていく。
・相手も大切にしていくことで、自然な形で多様性の受け入れにもつながるのではないか。

（小濱委員長）
・ＵＤには自分も含まれ、自分にとっても使いやすいものは、他の人とっても使いやすいものというところから入っていく。
・心のＵＤのポイントとして、お互いや自分にとっても大事なことといった視点を取り入れたい。

（佐瀬委員）
・自分を大切にすることの延長線上には、他者や相手といった視点が生まれてくる。
・例えば、「やさしい日本語」においても、自分がやさしいと思っても相手がやさしいと感じるかは別の問題であり、自分がどう感じるかを考えるだけでなく、その先に相手はどう感じるかという事を考える事で他者という視点につながっていく。
・お互いを認め合うという基礎には、まずお互いを知るという事がある。
・他者という視点をＵＤを通して養う事はＳＤＧｓにもつながる第一歩であり、他者という視点がないとＳＤＧｓの取組もひとりよがりなものになってしまうのではないか。

（小濱委員長）
・ＵＤには、できるだけ多くの人が選べるような選択肢を用意していくという考え方もある。

（畔柳委員）
・オンラインにより仕事を進められる環境は整ったが、人とのコミュニケーションを取りにくいという課題が生じている。
・セミナー等の一定方向から話を聞くといったものであればオンラインでも支障は少ないが、初対面の人などとのオンラインでのコミュニケーションは、対面に比べて得られる情報が少ないため、コロナが明けた後には対面式に戻せるものは戻していくという動きになっていくと思う。
・学校教育等においても戻せる部分は戻していき、人と人との直接的な触れあい等を入れ込んでほしい。

（鳥原委員）
・予算の関係もあるため、この計画の期間ではこんな事をやっていきたいというという組み立てやこのＵＤの活動はＳＤＧｓの何番ですといった整理でも良いと思う。
（竹島委員）
・国土交通省において、接遇のガイドラインを作成している。その中で「見えにくい障害」という言葉がキーワードとなっており、発達障害、知的障害や認知症の方を含めて、外見上見えにくい障害の方への対応がポイントとなっている。
・障害者差別解消法が６月に改正され、大きなポイントとして企業の合理的配慮が今までの努力義務から義務化に変更となっている。こうした背景を踏まえて、民間企業向けの講座の実施等を有効に進められるのではないか。